



# 啓明学院中学校

Hands and hearts are trained to serve  
both man below and God above.

## 2024年度 入学試験問題 A方式【国語】

[試験時間50分/100点満点]

- ※ 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- ※ 句読点はすべて字数にふくみます。

受験番号

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学校に入学し、僕は吹奏楽部に入部した。入学して初めて仲良くなつた友だちの明人に誘われたからだ。

「僕さ、小学校低学年のころにお姉ちゃんに連れられてこここの吹奏楽部のマーチングを見たんだ。樂器を吹きながらピシッとそろつて動くのが、すごくかっこいいなつて！ 啓太もどの部にするか迷つて、一绪に吹奏楽部に入ろうよ！ 絶対楽しいよ！」

特にやりたいことがなかつた僕は、そうはしゃぎながら語る明人の勢いに押され、一緒に入部することになった。

明人は早速「トランペットをしたい」と自ら名乗りを上げた。僕は、どの樂器にしようかと①決め【】ていた。ひときわ大きな樂器を見

つけ、

「これ、何ですか？」

と三年生の副部長、奏先輩に聞いた。

「それはチューバっていうの。大きな樂器でしょ。とっても重いから、持つて演奏するだけでも最初は大変かな。」

そう言いながら奏先輩は僕の身体をちらつと見た。クラスでも背が低い方で、体重も軽い僕は、勢いで、【 A 】 初めからそのつもりだったかのように宣言してしまつた。

「僕、チューバにします！」

最初はチューバの重さに苦戦しながらも、少しづつその重さにも慣れ、夏休みを終えるころにはすっかり【 ② 】 をいだくようになり、演奏技術もずいぶん上達した。

そして、秋の演奏会では、見せ場の一つであるマーチング演奏を今年も行うことが決まり、明人は目を輝かせて（ a ）ヨロコんだ。僕も初めて出場する演奏会を前に、少し気持ちがたかぶるのを感じた。

……でも、③甘くはなかつた。

「そこ、ポイントが違う！ 斜めにそろつてない。ちゃんと配置図見て動いて！ もう一回最初から行くぞ！」

部長の横尾先輩が（ b ）キビしく指示を飛ばす。

「啓太！ またテンポがズれてるぞ！」

その日は何度も注意され、【 B 】他の部員たちの動きについていけるようになったころに練習は終わった。終わりのミーティングで横尾先輩

が、

「今ままじや【C】演奏会に間に合わない！おさらいをしつかりして楽譜と配置図を頭にたたき込んでほしい。」

と告げる。啓太はくたくたに疲れていた。

「啓太、お疲れ！テンポ取りながらみんなとそろえてきびきび動くって難しいよね。楽器吹くときはまつすぐ顔上げておかないといけないし、先輩にぶつかったりしないかってひやひやしちゃうよ。」

片付けしながら明人が話しかけてくる。そんなことを言いながらも、明人は【D】楽しそうだ。その瞳は、ずっと遠くの未来を見ているようだった。

次の日の(C)ホウカ後、昨日練習した動きをもう一度最初から確認することになった。昨日やつと最後の方にできるようになっていたのに、一日経つとまた振り出しに戻ったような動きになってしまった。

「啓太！また動きがズレてる！」

と何度も横尾先輩に注意される。動きに集中すると、今度は演奏を間違えてしまう。他の一年生を見ると、ちゃんと先輩たちの動きについている。もちろん明人もそうだ。自分が取り残されている。そのことが、僕の動きをいつそう固くした。

帰りは僕の降りる駅までいつも明人と一緒に帰る。明人は今日も楽しそうにマーチング練習のことを話していたが、僕はなんだか明人の言葉が頭に入つてこなかつた。

日曜日の朝、僕は時間通りに起きたものの、昨日のことが頭をよぎり、練習に行く気になれず、初めて練習をずる休みした。

そのまま寝てしまおうかと思つたけれど、④劣等感と⑤罪悪感で、寝るに寝られない。そんなとき、クラスメイトの学から一緒にゲームをしようと誘われ、まるで逃げるかのように、ゲームにのめりこんでしまつた。

【E】何時間経つただろうか、スマートフォンの着信音が(d)なり、見てみると明人からのメッセージだつた。

「体調大丈夫？」今日のマーチング練習で少し変更点が出たから送るね。」

その後、事細かに今日の練習内容やら変更点やらが送られてきた。僕はまた暗くて重い気持ちになつてしまい、内容をあまり読まないまま、「ありがとう」とそつけない返信だけ送つて電源を切つた。

月曜日。暗い重い気持ちを抱えたまま、電車に乗ると明人がいた。

「もう体調大丈夫？元気になつた？」

と心配した顔で明人が聞いてくるので、また心がぎゅっと締めつけられた。

「うん、もう大丈夫。心配してくれてありがとう。」

そう言つて、⑥うまく笑えているかよくわからないが、できる限りの笑顔を明人に返した。

「そつか、良かつた！ そうそう、昨日の練習で先輩がね……」

学校に着くまで明人は楽しそうに昨日の練習の話をしたが、やつぱり今は吹奏楽の話は気が重くて、僕は話半分で明人の言葉を聞き流していた。

教室に着くと学が話しかけてきた。

「啓太、おはよう。昨日のゲームおもしろかったよな！ 夕方までやつちやつたから、俺さすがに母さんに怒られちゃったよ。啓太は大丈夫だつた？」

ドキッとした。横には明人がいる。

「え、ゲーム……？」

明人は⑦いぶかしげな表情で学と僕を見た。

「明人もおはよう。そうそう、昨日俺たち朝からずっとゲームしててさあ。すっごく盛り上がりつつちやつて。今度明人もやろうよ！」

何も知らない学は明人に⑧あつけらかんと話すが、僕の心臓の鼓動はまるで太鼓でも叩いたかのようだつた。

「啓太、どういうこと？ 昨日は体調が悪いから練習休んだんじやなかつたの？ ずる休みしてゲームしていただけだつたの？」

そう明人に聞かれたとき、僕はもやつとした黒いものに、心が支配されたような気がした。

「……明人には関係ないじやん。」

「え……。」

明人は目を見張つていたが、僕はそっぽを向いて自分の席に向かつた。

それからずつと明人と話さないまま昼休みになつた。僕は頭が痛くなつてしまい、ご飯を食べずに保健室に行くことにした。ガラツと保健室の扉を開けると、体操服姿の奏先輩がいた。僕はまたドキッとして、鼓動が速くなつた。

「啓太君、こんにちは。どうしたの？ 今、先生ちょっと出ちやつて代わりにお留守番頼まれてるの。しんどいの？」

「あの……少し頭が痛くて……。」

おずおずと答えると、奏先輩は僕の顔をのぞきこみながら言つた。

「それって、練習に行きたくないから？」

「え……あの……そんなこと……。」

僕は気が動転してしまって、うまく言葉が返せなかつた。

「啓太君、そういえば、昨日の練習来てなかつたよね。私ね、マーチングのことと、吹奏樂嫌になつちやつたのかなあつて、心配してたんだよね。ただでさえマーチングつて難しいのに、一年生だし、それに……身体も少し小柄なのに一番大きなチューバだしね。」

僕がうつむいて言葉を返せずにいると、奏先輩は続けた。

「だから、失敗しても大丈夫だし、できなくて当たり前なんだよ。でもね、みんなできないところから始めて、こつこつ努力を重ねて上達するんだよ。どれだけの努力がいるかは、人それぞれかもしれないけどね。努力せずに何でもできたらつまらなくない? 横尾君だつてね、今じや部長としてみんなを引つぱつているけど、一年生のころはマーチングだつて苦手だつたし、練習態度も全然良くなかった。でも、今じや見違えるよね。多分、みんなの見えないところですごく努力してたと思うよ。何もせずにあんな風に成長できない。」

奏先輩の口調は優しかつたが、眼差しはとても真剣だつた。

あの頼りがいのある横尾先輩が……今では考えられない。僕は今まで努力をしていただろうか。苦手意識ばかりが先行して、マーチングから目を背けてきたのではないだろうか。僕は知つていた。明人が一人でいるときに楽譜や配置図を見ながら夢中で指を動かしていたのを。またやつてるよ。好きだなあ。と思いつながら見て見ぬふりをする僕がいた。多分、明人はそんな努力をたくさん重ねてきたんだろう。

僕がうつむいて黙つていると、奏先輩は僕の肩をポンツと叩いて言つた。

「まあ、過ぎた時間は戻らないし、今からでも意識を変えることが大事だよね。逃げることは（e）カントンだし、いつでもできるよ。逃げないことだけ覚悟も（f）ヒツヨウなことだからね。」

そのときガラッと扉が開き、保健の先生が戻ってきた。来室の理由を伝えると、ベッドで休みながら様子を見ようといふことになつた。

ベッドに横たわる僕の頭の中で、奏先輩の言つたことがぐるぐる回つていた。僕は明人にやめるつて言つたけど……でも……。色々と考えていたらいつのまにか眠つてしまつたようで、五時間目終了のチャイムで目が覚めた。少しすつきりしたので、そろそろ教室に戻ろうかと思ったところ、扉が開いて明人が入ってきた。

「啓太、大丈夫? 保健室に行つたきりで、さつきの（g）ジユギョウにもどる。明人はすぐ心配そうな目で僕を見つめた。その瞳を見てみると、⑨今朝のことを思い出して（h）ムネがチクッと痛くなつた。

「明人、今朝はごめん。練習も……する休みしてごめん。」  
僕はうつむきながらそう言つた。

「僕こそ……ごめん。今までごめん。」

その明人の一言に僕は驚いて顔を上げた。明人は申し訳なさそうな顔をしている。

「僕、啓太を無理矢理入部させちゃったんじやないかって、ずっと気になっていたんだ。絶対面白いよって、強引に誘つちゃった気がして……。僕に付き合わされて入ったせいで、きつい練習に嫌になつてるんじやないかって。実は僕、啓太が練習のときつらそうにしているの、うすうす感じていたんだ。そんな啓太に何とか楽しさを知つてもらいたいと思つて、僕も吹奏楽の話ばつかりしちやつてたなつて。啓太の話、もつと聞いてあげたらよかつたなつて。今朝からずつと（一）ハンセイしていたんだ。啓太、本当にごめんね。」

明人がそんな風に思つてくれていたとは想像もしていなかつた。そして、僕は今日一日考えて気づいた自分の素直な気持ちと、⑩一番強く願つてることを、包み隠さず明人に伝えた。

「そんなことないよ。僕、明人ほど夢中になれるものがなくて、うらやましかつたんだ。吹奏楽部に入つたら、自分も何か見つけられるんじやないかつて思つた。でもマーチングの練習についていけないのがつらくて、僕は逃げただけなんだ。朝からずつと考えてたんだけど、僕、みんなで合奏したときの一体感とか、きれいな音が奏でられたときの心地よさとか、やっぱり吹奏楽が好きだつて、改めて思つたんだ。チユーバにもようやく慣れてきたし、何より僕は明人と共に秋の演奏会でマーチングに出たい。だから、確かに今はマーチングの練習はつらいけど、努力してこれを乗り越えたら、すごい達成感を得られると思うんだ。」

「じゃあ今日から一緒に自主練習しようよ！ 遅れた分を取り戻して、秋の演奏会で最高の演奏を見せよう！」

明人はうれしそうに僕に（一）ティアンしてくれた。

それから一年半。僕はずいぶん背も伸びて、当時の横尾先輩と同じくらいになつた。今日は新入部員の一年生たちが楽器を選ぶ日だ。最後に残つた今年の新入部員で唯一の男の子が悩んでいる。一年生のときの僕と同じように小柄で細身の体型だ。

「この大きな楽器、チユーバって言うんだ。金管楽器の中でも重低音が出てかつこいいんだよ。今の君には少し扱いづらいかもしけないけど、ひたむきに向き合えばだんだん身体になじんでくるし、僕と一緒にこの楽器を演奏してみない？」

あの日、⑪保健室で奏先輩が語つてくれたことを思い出しながら、僕は彼にそう言つた。

問一 線部 (a) ～ (j) のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 線部①「決め【】て」の【】にひらがな二字を入れ、「決められないで」という意味の言葉を完成させなさい。

問三 【A】～【E】に入る最も適切な言葉を次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア あたかも イ かれこれ ウ からうじて ハ しきりに オ どうてい カ とりわけ

問四 【②】に入る最も適切な言葉を次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 愛着 イ 未練 ウ 疑問 エ 共感 オ 不安

問五 線部③「甘くはなかった」について、どのようなことが「甘くはなかった」ですか。解答らんに合うように本文中から十八字でぬき出して答えなさい。

線部④「劣等感」 線部⑤「罪悪感」について、どのようなことからこの気持ちを感じていますか。「劣等感」については、

本文中から十三字で、「罪悪感」については、本文中から十二字で、それぞれ解答らんに合うようにぬき出して答えなさい。

問六 線部⑥「うまく笑えているかよくわからない」について、うまく笑う、とはどういうことですか。解答らんに合うように説明しなさい。

線部⑦「いぶかしげな表情」とはどのような気持ちがこめられた表情ですか。説明しなさい。

線部⑧「あつけらかん」とはどのような意味ですか。最も適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 雜然と イ 自然と ウ 当然と エ 平然と オ 歷然と

問七 線部⑨「今朝のこと」とはどのようなことですか。解答らんに合うように答えなさい。

線部⑩「一番強く願つていること」とは何ですか。解答らんに合うように、本文中から二十字でぬき出して答えなさい。

問八 線部⑪「保健室で奏先輩が語つてくれたこと」とは何ですか。解答らんに合うように、本文中から三十字でぬき出して答えなさい。

線部「どの部にするか迷つている」とあります、あなたは中学生になつたら部活動をしたいと思いますか。

ア したいと思う イ したいと思わない ウ どちらともいえない

の中から一つ選び、記号を答えなさい。そして、そのように考えた理由を、五十字以内で答えなさい。

問九

問十

問十一

問十二

問十三

# 入学試験解答用紙 A方式【国語】

(二〇一四年一月一三日実施)

(注意)

下の□には記入しないこと

問十三	問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
記号		ということ					⑤	④		A	決 め	f a
										B		んだ b
										C		しく c
										D		後 d
										E		り e
												j e

こと

得点

受験番号

